2

1

10行分アキ

# 押しの強い女

2号

平林たい子

3号

二十九字詰
二十行
段8ポ

温度表の上では、奈落といふ言葉そのまゝに、狂った手が恐しい勢ひで地を蹴って奈落へ行くやうな線の高低が不揃に毎日繰返された。低い谷では三十六度を割ってゐることもあり高い峯では三十九度の線をさへ跨いでしまってゐることもあった。

ずいぶんいものが覗

---

と行き着け

小い病院の一室に、平和安固なるほかなかった所をやっと得ることができた私だった。立のことはともあれ、今はない気のめいらないしの忙しさで病み足らなかったといふので病み継がうとするがくは、瞳り毎日は戦闘して行った。ような猛りを阿片やモルヒネは知らないが、麻酔や睡眠には比較すべくもないなったとき、

その陶酔の

十月号ぬき

十月号

---

ときどき乗せてくる言葉

つたのは病気の内容が予想したとほりだ

私は夫

束は桐牛の知